

教養科目		社会科学部・看護学部・アニメーション文化学部・人間科学部					2024年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)																
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。													
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。													
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。													
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。													
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。													
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。													
信じられる能力を	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。													
◎:科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPIに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPIに少し関わる科目(30%)																
授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	○	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。		◎	△	◎	△	◎	◎	◎		
	◆ SDGs概論	1	1	春	○	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。		△	○	◎		◎	◎			
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	○	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。		○		◎		◎	◎			
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	○	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。			△	△	○	○	◎	◎		
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	○	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。				◎	○		△	◎		
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	○	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。			△	◎	○		△	◎		
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	○	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。			○	○	○		○	◎		
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春		「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。			○	○	○		○	◎		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
数理・ 情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	○	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要なとされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△						
	数理・データサイエンス・AI 基礎	2	1	秋		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI利活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI利活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○			
	数理・データサイエンス・AI 応用	2	2	春		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。 数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○			
言語教育科目	外国語	◆ 英語基礎Ⅰ	2	1	春	○	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅰ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ 英語基礎Ⅱ	2	1	秋	○	「英語基礎Ⅰ」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅱ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ アクティブ英語Ⅰ	2	1	春	○	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅰ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		アクティブ英語Ⅱ	2	1	秋		「アクティブ英語Ⅰ」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅱ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		レベルアップ英語Ⅰ	2	2	春		海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		レベルアップ英語Ⅱ	2	2	秋		「レベルアップ英語Ⅰ」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		中国語と中国文化Ⅰ	2	1	春		中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
中国語と中国文化Ⅱ	2	1	秋		「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
言語教育科目	外国語	フランス語とフランス文化Ⅰ	2	1	春		フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2	1	秋		「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	2	1	春		ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	2	1	秋		「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	日本語（留学生専用科目）	◇ 日本語ⅠA(文法)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(読解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(聴解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(文法)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(読解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(聴解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡA(文法)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
言語教育科目	日本語（留学生専用科目）	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
基礎教育科目	社会の理解	日本国憲法	2	1	春 または 秋		日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○				
		経済学	2	1	春 または 秋		私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。 経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎					
		社会学	2	1	春 または 秋		社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△			
	人間形成	哲学	2	1	春 または 秋		哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△				
		心理学	2	1	春 または 秋		心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△	
多様性の理解		2	1	春 または 秋		異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
基礎 教育 科目	人間 形 成	文章力の基礎	2	1	春 または 秋		大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○				
		美術の見方	2	1	春 または 秋		自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○				
		生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋		少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○				
		生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋		様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎				
	自然 科学	数的理解	2	1	春 または 秋		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△		
		化学	2	1	春 または 秋		基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎					
		生物学	2	1	春 または 秋		生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△			
		環境科学	2	1	春 または 秋		現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△		

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学部名	社会科学部	学科名	スポーツ社会学科	2024年度 カリキュラムマップ
-----	-------	-----	----------	------------------

スポーツ社会学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

スポーツ社会学科では、本学科の課程を修め、学則に定める卒業に必要な単位を修得し、豊かな人間性・協調性・社会性などの人間力を身につけ、スポーツ、健康、教育の分野でリーダーシップを発揮し、社会の発展に寄与できる力を身につけた人に対して学位を授与します。

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	社会におけるスポーツ、健康、教育の意義やあり方を多角的に捉え、スポーツ組織経営、健康の維持・増進、体育教育に役立つ高度な専門知識と技術、それを活用した実践力を身につけている。
	DP2	情報の活用	スポーツ、健康、教育における様々な課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し、さらに自らの情報活用を評価、改善することができる。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	スポーツ、健康、教育における様々な課題を主体的に見出し、論理的・客観的思考を基に、よりよい解決に向けて探究することができる。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や実践力を有し、豊かな人間関係を育むための自己表現力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	多文化交流や地域貢献活動を通して、国際社会ならびに地域社会で活躍できる人間力、創造力、実践力を身につけている。
	DP6	課題解決力	解決すべき課題を見つけ、論理的思考を基に分析・整理し、複数の方法から最善の方法を選択することによって計画的に実行できる。さらに、結果を多面的に評価し、検証することができる。
信じる力を可能にする	DP7	自己効力感	成功体験や失敗体験などの経験を通して、自らの可能性を追求し、自分の未来を切り拓くことができる創造力を有している。
	DP8	リーダーシップ力	スポーツ、健康、教育分野において必要とされるリーダーシップ能力を身につけた指導者、教育者を目指すことができる。

◎: 科目の到達目標が該当のDPIに直結する科目 (100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPIに関わる科目 (70%) △: 科目の到達目標が該当のDPIに少し関わる科目 (30%)

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
スポーツマネジメント・コーチ	スポーツ経営学	2	1	秋		到達目標： 人々のスポーツのニーズや欲求に対して、スポーツを商品やサービスとして提供する営み(事業)をテーマに、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としてスポーツ経営の現代的な課題への改善や解決方法を考えることができる。 授業概要： スポーツ経営における経営資源をいかに有効に(効果的・効率的に)活用して、スポーツサービスの生産・提供を行い、スポーツ振興という社会的・文化的な貢献をしながら長期的なスポーツ経営体の発展を可能にするかという問題や組織的活動からいかにして協働をうまく展開し、組織目的の達成に個人の貢献を獲得できるかということが問題となる。本講義では、スポーツ経営学の基礎的な理解を深め、実践領域としての現代的課題を取り上げ解説する。	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	
	スポーツビジネス論	2	3	春		到達目標： スポーツ・ビジネスに関する基礎的な考え方や知識・理論を習得することで、自身でスポーツビジネス独自の現状や課題を発見し、考察することができるようになる。 授業概要： 現代社会において、スポーツとビジネスの関わりは深く、幅広い分野への発展をみせている。公共・民間のスポーツクラブや施設などは「するスポーツ」、プロスポーツチームやメガスポーツイベントなどは「みるスポーツ」というように、スポーツ組織は人々にスポーツサービスを提供しビジネスとして成立させている。本講義では、「する・みる」スポーツそれぞれのビジネスについての基礎的な知識と理論について、具体的な事例を通して解説を行う。	◎	○	◎	○	○	○	△		
	スポーツリーダーシップ論	2	2	春	○	到達目標： 「スポーツにおけるリーダーシップを理解する」をテーマとし、スポーツ集団・組織におけるリーダーシップの基礎知識を学び、それらの知見を実際のスポーツ現場で活用し、チームパフォーマンスを向上させる能力を習得できる。 授業概要： スポーツ集団においてはリーダーの存在がパフォーマンスに大きな影響を及ぼす。まず、これまでのリーダーシップ研究の主な理論また心理学的な視点からリーダーシップについて基本的知識を学習する。また、それらをベースにリーダーシップを実際の現場で如何に発揮するか能力を、これまでの事例分析、グループワーキング(現場で起こる様々な問題について課題発見・原因追求・解決方法)を通して獲得できるよう授業を行う。	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	スポーツマネジメント論	2	3	春	○	到達目標： スポーツ現場におけるマネジメントをテーマとして、身体活動のみならず、ビジネス活動、文化活動など社会的活動としての価値を急速に高めつつあるスポーツの過程の知識を身につける。加えて、学生がスポーツの様々な場面において、効果的なマネジメントを行なうことができる。 授業概要： 現代ではスポーツに関わる様々な活動がビジネスとして行われるようになっている。そして、これらのビジネスにおいて高度なマネジメントの知識と技能が要求されつつある。本講義では、スポーツマネジメントの基礎的概念についての理解を深め、マネジメントの基礎を習得するとともに、現代においてマネジメントがどのようにスポーツの場面で応用されているのかについて解説する。	◎	○	○	◎	◎	○	○	○	○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
スポーツマネジメント・コーチ	体育・スポーツ行政論	2	2	春		到達目標: 「体育・スポーツ」と「行政」の関わり及びスポーツ振興における行政の役割をテーマに、学生が体育・スポーツ行政に関する基礎的知識を習得し、将来体育・スポーツ指導者としての能力が発揮できる。 授業概要: 現代社会においてスポーツ活動は社会の様々な分野で実施されているが、地域及び国家単位での社会的なスポーツ活動の成立には、行政の制度的な支援が必要不可欠である。特にスポーツ先進国といわれる北米、ヨーロッパ及び日本では、スポーツの普及振興に当たっては国家を中心とする強力な行政システムの支援が、スポーツの社会的発展の初期の段階においては顕著に認められている。また、これらの国や地域ではスポーツ活動が社会的に成熟した今日にあっても充実した制度とサービスで国民のスポーツ活動を手厚く支援している。本講義では、スポーツ先進国といわれる代表的な国のスポーツ行政の制度的発展とその運用の実態について歴史的に追跡し、それぞれの制度がその国のスポーツ振興にいかなる役割を果たし、またいかなる課題を提示したかについて検証するとともに、わが国の体育・スポーツ行政の歴史的発展と対比させ、その評価すべき点と問題点を明らかにし、21世紀におけるわが国のよりよいスポーツ振興のためにいかなる制度と行政サービスを充実させる必要があるかについて解説する。	○	○	○	○	○	○		○
	スポーツボランティア実習	2	3	通年	○	到達目標: 「審判(レフェリー)」「運営(マネジメント)」等スポーツに関わるボランティアを行うことをテーマに、スポーツを支えることの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしくみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力を向上させる。また、スポーツ少年団、クラブチーム、中学・高校運動部等でスポーツ指導実践を行うことにより、コーチングの大切さを体験するとともに、スポーツ現場の実態やしくみ、対象者の特性を理解し、専門的スキルや思考力の向上等スポーツ現場において指導や運営ができる能力を養うことを到達目標とする。 授業概要: 「審判(レフェリー)」協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における審判員として、実務経験を積む。 「運営(マネジメント)」協会・連盟など各スポーツ競技団体主催の公式大会における運営補助員として、実務経験を積む。 「指導(コーチング)」中学校、高校の運動部活動及び地域のスポーツ少年団などで、選手指導を体験し、スポーツ指導者としての実務経験を積む。練習プランの作成、練習中の選手へのアドバイス、チーム全員に対するミーティング、試合における審判等を体験することにより、指導方法やコーチングの難しさや奥深さを学ぶ。これらのスポーツ実務を32時間(4日間)ずつ合計64時間(8日間)以上、体験し日誌を作成する。また、実習後、「実習を通して学んだこと」をテーマにパワーポイントを作成し、プレゼンテーションによる報告を行う。	◎	○	△	◎	○	◎	◎	○
	ゲームプランニング論	2	2	春	○	到達目標: 競技力向上のためには、ゲームを分析し、課題を抽出し、トレーニングにその課題を反映させることが重要である。サッカー指導者やクラブマネジメントの現状を把握したうえで、サッカーの競技力向上を目的とした「ストライカー育成についての研究」を例に、現状分析、分析方法、結果分析、考察、プランニングの一連の流れを習得することを到達目標とする。 授業概要: サッカー界での指導者のおかれている立場や、マネジメントの現状について把握するとともに、サッカーの競技力向上を目的とした講師による「ストライカー育成についての研究」を例に、課題抽出、現状分析、結果分析、考察、プランニングの一連の流れを習得する。今後、スポーツ界において、競技力向上やスポーツ界発展のために何をすべきか、どう関わっていくかのビジョンを各自で確立する。	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○
	サッカーレフェリーライセンス	2	1	春	○	到達目標: サッカーの競技規則を理解するとともに、サッカーのゲームにおける審判法を実践することをテーマに、新規取得者(審判資格未取得者)は、(公財)日本サッカー協会公認4級審判員の取得並びに3・4級資格取得者については来年度登録の更新するとともに、学生がサッカーの公式戦や練習試合等においてサッカー審判員として能力を身につけ活躍することができる。 授業概要: サッカーの競技規則は、毎年、FIFA(国際サッカー連盟)から競技規則の変更が行われ、JFA(日本サッカー協会)を通じて、各地域及び都道府県、各チームに通達される。しかしながら、ワールドカップやオリンピック等の国際大会をはじめJリーグ等トップリーグにおいても、審判の誤審や競技規則の適用において、様々な問題が起こっている。本講義において、サッカーの競技規則及び「フェアプレーの精神」を理解するだけでなく、サッカーのゲームにおいて、実践を通して審判技術の向上を図る。	◎	○	◎	○	◎	○	○	○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
スポーツ マネジメント・ コーチ	基礎コーチング論	2	1		○	到達目標： 「条件付け：人間は環境に適応している」をテーマとして人間の潜在的な能力について、心理学、哲学、倫理学、病理学等の専門家から多角的な角度で学んでいく。加えて、人間は「心構え：心のクセ」が環境的外的要因によって消極的・否定的に涵養され内的な資質が押し殺されている事を学び、「この条件付け」を解放するコーチングの能力を身に付ける。 授業概要： 「条件付け」の要因である、学校生活における比較社会要因、実績のある経験者の言葉によるリスク等、外的要因が消極的、否定的思考を形成していることを理解する。「無限の可能性」について、自然の豊かさ、まだ解明されていない脳科学について「人間の凄さ」を歴史的変遷を踏まえて学んでいく。 スポーツ選手のリーダーシップ成功映像、マズローによる欲求階層、フロイトの防衛機能の事例から人間のしぐみを考察する。一枚の絵をグループ討論を主体とした方式により、人それぞれ価値観が違う事を学んでいく。 教養面、社会面、健康面、家庭・経済面等による自己評価チェックを行い、自分自身の長所発見や自己改善の気づきとし自己を認識していく。チェック表から自分の価値観を理解し目標設定（目標の意味づけ）作業を行っていく。	◎	△	○	○	○	△	◎	◎
	応用コーチング論	2	1	秋	○	到達目標： 「5W1Hを活用した質問を作り出し創造的な聴き方を理解する」をテーマとして、創造的な聴き方、効果的な質問のつくり方、意思決定プロセスを学び相互理解を深めるコーチングを身につけるための能力を身につける。創造的な聴き方の5原則を学び、聴き方を学ぶことで、効果的なオープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを学び考察する。四つの性格特性を学び、効果的なコーチングを理解する。また、意思決定の重要性、プロセス、仕方とセルフ・イメージと自分の行動との結びつきについて学び、相手の状況、心理を理解するために効果的な質問と聴き方そしてコーチングができるようになることを到達目標とする。 授業概要： 成功したリーダーによる意思決定者の在り方、心構えについて考察しレポートしていく。5W1Hの質問が作ることがみにつくように、2人～3人でのグループ討論を主体とした方式による授業を行っていく。特に4つの性格特性に合わせた関わり方を理解して実践することで、目標実現には、他の協力が不可欠であることを学ぶ。意思決定プロセスの原理原則と受講生それぞれによる過去の経験を比較して、自分自身に合った意思決定の在り方を見つけていく。加えて、自己評価によるアクションステップにおいて、自己認識を行い、自分に合ったパーソナルなコーチング方法を見つけていく。	◎	△	○	○	○	△	◎	◎
	スポーツ心理学	2	2	秋		到達目標： 学生がスポーツ心理学の基礎的知識に基づき、スポーツにおけるメンタルトレーニングの基礎理論の理解と基礎技能を習得し、スポーツ選手に対してメンタルトレーニングができるようになることを到達目標とする。 授業概要： スポーツの心理的効用や心理的要因がスポーツのパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツにおける心理学を広く系統的に取り上げ考察する。スポーツ心理学の基本理念、スポーツとパーソナリティ、年齢別の心理的発達段階、運動学習の指導と心理、トップスポーツの心理学などを実際の学校体育や社会体育等のスポーツ指導場面に即して学ぶ。また、メンタルトレーニング技法を学ぶ。そして、事例をもとにメンタルトレーニングプログラムを自ら作成し、プレゼンテーションを行なうことで実践力を身につける。	◎	◎	◎	○	△	◎	○	◎
	サッカーコーチング論	2	4	春		到達目標： 「自分自身の内面的資質を開発し、パーソナルリーダーシップを身につけること」をテーマとして、環境が及ぼす暗黙の制限について学び、内的動機付けと目標を設定し、そして、パブリックリーダーシップを結びつける為の能力を身につける。環境が及ぼす暗黙の制限である「条件付け」について理解する。また、環境的条件付けを自ら考え、過去の自分の消極的・否定的な思考を知り、他の人に対するパブリック・リーダーシップを発揮に活かして行く事ができることを到達目標とする。 授業概要： リーダーシップ映像、一枚の絵を多角的、客観的に観察してグループディスカッションを行う。グループでまとめたことをプレゼンしていき、人それぞれのこころの状態や価値観からとらえ方が違うこと認識していく。教養面、社会面、健康面、家庭・経済面等による自己評価チェックを行い、自分自身の長所発見や自己改善の気づきとし、自己認識していく。そして自分の価値を理解し、価値ある目標設定（目標の意味づけ）作業を行っていく。自己認識から自分自身に合ったコーチングを学んでいく。	◎	○	○	◎	△	○	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
スポーツマネジメント・コーチ	サッカーコーチング実習	2	4	秋	○	到達目標： 日本サッカー協会公認の指導者上級ライセンスを目指す上で「C級ライセンスでの実践経験を振り返る」をテーマとして、オーガナイズの意味を理解し、ガイディッドディスカバリーを意識したコーチングできる能力を身につける。 特に、M-T-Mメソッドを理解し、主体的にゲーム分析、ゲームプランニング、フリーズコーチングとシンクロコーチングができる事を到達目標とする。 また、リレーションシップにおける監督、コーチの役割分担を行い、テーマの改善に向けて協力することを身につける。 実践終了後、ファシリテーターの役割を担い、活発なディスカッションが促進できるようになることを到達目標とする。 授業概要： 講義にて、C級ライセンスで行った、ゲーム分析法、プランニングを行う。 10分間の指導実践を行い、実践後は、グループ討論を主体とし、オーガナイズ、コーチングの改善点について考察し、指導がよりよくなるよう解決策を自ら考え、判断できるようになる。 グループ討論が円滑にしていけるよう、ファシリテーター（促進役）を学生で行いより良い議論とは何かについて模索していく。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は、S級コーチライセンスを保持するサッカー指導者としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、サッカー指導現場において実践的に役立つ授業及び実習を実施する	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
	C級コーチライセンス	2	3		○	到達目標：サッカー指導者として多角的な基礎を学び、アマチュアレベル（こどもから大人）までの指導ができる 授業概要： 講義では、発育発達と一貫指導、メディカル、競技精神、チームマネジメント、分析法Ⅰ、Ⅱ、サッカー戦術論Ⅰ、Ⅱ、GKと理論をグループディスカッションを交えながら進めていく。指導実践においては、一人15分の指導実践を実施し、その後グループディスカッションにおいて指導の改善を行っていく。	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
	D級コーチライセンス	2	3		○	到達目標：サッカー指導者として多角的な基礎を学び、アマチュアレベル（こども12歳以下）までの指導ができる 授業概要： 講義では、発育発達と一貫指導、メディカル、競技精神、チームマネジメント、分析法Ⅰ、Ⅱ、サッカー戦術論Ⅰ、Ⅱ、GKと理論をグループディスカッションを交えながら進めていく。指導実践においては、一人15分の指導実践を実施し、その後グループディスカッションにおいて指導の改善を行っていく。	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
	トレーニング論	2	2	秋		到達目標： スポーツの指導者として、『スポーツ全般を対象にして、トレーニングの原則について学習する。』ことをテーマとし、指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。学生はトレーニング実施に必要な解剖・生理学的原則などに立脚しつつ、バイオメカニク的な理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。トップアスリートを含めたアスリートのトレーニングから、健康づくりを目的としたトレーニングまで、指導方法論などが理解できるようになることを到達目標とする。 授業概要： トレーニング学はスポーツ科学の進展と共に進化している。トレーニング自体は人間の有史以来存在すると言える。その時の時代性を反映した論理のもとに、人類の文化遺産として存続してきている。近代においては、約10年余りの年月の間、科学の発展に追随しつつ、トレーニングの近代的な理論が構築されてきた。体力諸要素をベースとして、トレーニング科学が発展してきたが、時代が進むとともに、脳－神経系に焦点と基礎を置くトレーニングも提示されてきている。こうした広範なトレーニングの理論を論じていく。	◎	◎	◎	△	△	○	△	
	トレーニング実習	1	2	秋		到達目標： 『健康維持増進、介護予防そしてスポーツ競技力向上など』をテーマとし、筋力トレーニング、ストレッチングを中心としたトレーニングが広く行われている。健康運動実践指導者及び健康運動指導士として必要な、これらのトレーニング実技を専門的なレベルで習得する。加えて、近年特に唱導され必要性が高まってきている、ボディーワークであり心身のリラクゼーション法として、ゆる体操及びゆるトレーニングを実習し、健康維持増進はもとより、心身のコンディショニングさらにスポーツ競技力向上に役立てられるようになることを到達目標とする。 授業概要： 筋力トレーニングに関しては、マシンを用いたトレーニング法を中心に、フリーウェイトを加えて、その正しい動作と負荷の設定ができるようになる。ストレッチングに関しては、スタティックストレッチングを中心に、その正しい動作とプログラミングができるようになる。健康維持増進や介護予防を目的としたゆる体操、場合によってはスポーツ競技力向上にも資することができるゆるトレーニングの実技を、指導者のリードに従って、適切に実施できるようになる。	◎	◎	○	○	△	○	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
健康 スポ ーツ	体力学	2	2	秋	○	到達目標： 体力を広くとらえ、健康に関連した体力の概念を主として、その内容・構造を理解する。運動処方の基礎として、体力の構成要素について専門的に学び、健康と体力、引いては運動の必要性が理論的に理解できるようになる。 授業概要： 現代の社会環境や、現代人の生活状況が、体力にどのように影響を与えているか。また、発育発達の過程で、体力はどのように変遷していくかについて論じる。さらに、老化と体力の関連性、疾病と体力の関連性にまでテーマを広げ、障害者の体力の問題にも焦点を当てる。体力についてその要素を、身体及び精神の両面に関わる、相互の連関において理解し、かつ疾病や障害との関連性を学習する。体力の捉え方や意味についての歴史的変遷について論じ、過去から現代にいたる日本人の体力の推移と、それに関わる要因と健康問題の関連性が理解できるようになる。	◎	△	○			○		
	体力学演習Ⅰ	2	2	秋		到達目標： メディカルチェックの意義と内容、体力の測定方法や健康調査について、その理論と実際を学習する。身体活動度の評価方法、身体組成の評価方法を学習する。そして、的確に健康・体力の評価が行えて、そのうえで運動実施に関する相談を受けかつ指導ができるようになる。 授業概要： 健康や体力に関する測定・評価について、理論面の講義にもとづき、体力測定、検査、調査法などについて、実技・演習を行う。測定、検査、調査法の妥当性や再現性などについて理解し、対象者や目的に応じた評価方法の選択と、正しい実施方法を習得する。それらのデータを統計学的方法によって分析する基本を学び、これらによる診断・評価を踏まえながら、有酸素運動の運動種目であるジョギングウォーキングの実践方法・指導方法を学習する。	○	△				○	○	○
	体力学演習Ⅱ	2	2	秋		到達目標： 体力の測定方法について、その理論と実際を学習する。実験室的な測定から、フィールドでの測定、質問紙による調査など、測定条件や目的に応じた測定方法を学習する。さらに、中高齢者に特化した測定・特に生活体力に焦点を当てたADL評価と関連させた測定・評価方法を学習する。そして、対象者に適合した体力の評価ができるようになる。 授業概要： 測定や検査の診断・評価について理解する。そのうえで、体力の測定方法が正しく実施できる技能を習得する。さらに、健康づくりの上での重要な対象者である、中高年齢者に適した体力評価と、その結果の活用の仕方を学ぶ。各体力要素ごとにその評価方法の理論的な理解と、実際の評価の実施方法を学習する。実際の指導現場における測定方法であるフィールドテストを中心に、現代において特に重要視される目的や対象者に対する評価方法が正しく実施できて、評価・診断できる能力を養う。	○	△				○	○	○
	運動処方	2	3	春	○	到達目標： 「現場で役に立つ運動処方」をテーマとする。運動処方の理論だけではなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解することができる。 授業概要： トレーニングについての基礎的な理解を深め、具体的な運動処方の方法を学ぶ。運動処方では、薬の処方と同様、間違った運動を処方することは大変危険である。正しい知識を身につけ、子どもから高齢者まで様々な体力レベルに応じた運動処方ができるよう、トレーニングの原則や方法を熟知しておくことが重要である。	◎	△	○			○		
	運動処方演習Ⅰ	2	3	春		到達目標： 『神経筋系の作業能力(筋力・柔軟性)を向上させるための運動プログラム』をテーマとして、学生はプログラムを作成したうえで、各種運動器具を用いて行う運動、あるいは特別な器具を用いることなく行う運動のプログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。 授業概要： 健康・体力の維持向上、老化の防止、痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。目的別運動処方の作成から実施の実際を学習する。特に、生活習慣病の予防、転倒防止などを対象にした介護予防などの目的で行われる運動の基本となる、筋力向上や筋肥大、筋持久力向上をねらいとした運動処方の実際について学習する。さらに、ウェイトトレーニング(レジスタンストレーニング)実施の際の、動作に関わる注意点や、指導上の留意点について、実際に役立つ形で学ぶ。	◎	◎	◎	△	△	◎	△	○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
健康スポーツ	運動処方演習Ⅱ	2	3	秋		到達目標： 『呼吸・循環器系の作業能力を向上させるための運動プログラム』をテーマとし、プログラムを作成したうえで、目的に応じた運動プログラムの作成の仕方を学び、指導することができるようになることを到達目標とする。 授業概要： 健康・体力の維持向上、老化の防止、痩身などを目的とした運動処方の実際を学ぶ。介護予防、生活習慣病予防など、目的別運動処方の作成と実施の仕方の実際を学習したうえで、運動行動や習慣を改善するアプローチについて学習する。昨今重要視されてきたメタボリックシンドロームやロコモティブシンドローム、さらにはメンタルヘルスの改善においても、有酸素運動を中心とした運動プログラムは重要である。こうした目的で行われる運動指導の実際上の留意点についても学習する。	◎	◎	◎	○	△	◎	△	○
	スポーツ医学Ⅰ	2	3	春		到達目標： スポーツ医学のもと側面を生理学、整形外科学、内科学等の観点から理解し、スポーツ医学の重要性を理解する。学生はスポーツ時に起こりやすい外傷や障害を理解し、それぞれの応急処置について学ぶことができる。 授業概要： 競技スポーツの特性と健康スポーツの大切さについて事例をあげて説明する。また、様々な障害について事例をあげ、その予防や処置について基礎的なことを学ぶ。	◎	△	○					
	スポーツ医学Ⅱ	2	3	秋		到達目標： 運動負荷試験の基礎として検査の目的、手順、方法および判定について理解する。学生は実践を通して、エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行うことができる。 授業概要： 運動負荷試験の基礎となる運動負荷の様式、手順ならびに判定について様々な生理学的なパラメータを用いて実践し、理解を深める。	◎	△	○					
	応用スポーツ論	2	3	春		到達目標： 運動プログラム作成をテーマとする。学生は運動プログラム作成の基本的な知識と理論を理解することで、一般の運動処方ならびに内科的疾患を持っている方への運動処方の基礎を学ぶことができる。 授業概要： 健康の保持・増進にはスポーツなどの身体活動の実践が有効である。本講義では、幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるために、様々な運動時の生体応答等についての知識と理論について学習する。	◎		○			○		
	応用スポーツ実習	1	3	秋		到達目標： 運動プログラムの基礎および応用について実践を通して理解する。学生は個人（対象者）に応じた運動プログラムの作成およびその実践力を身につけることができる。 授業概要： 幅広い年齢層におけるスポーツ実践についての理解を深めるとともに、効果的な運動実践方法について実習を通して身につけることを目的とする。また、自らの身体がトレーニングによってどのように変化していくのかについても体験する。	○		○	○		○	○	◎
	健康運動実習Ⅰ	1	3	春		到達目標： 『有酸素運動のひとつである「エアロビック・ダンスエクササイズ」の特性を』をテーマとし、エアロビック・ダンスエクササイズの基本的な技術を習得する。適切な運動強度の設定と運動強度の把握のしかたを知り、指導上の注意点を理解して、基本的なエアロビック・ダンスエクササイズの指導が出来るよう、指導力を習得することを到達目標とする。 授業概要： まずはエアロビック・ダンスエクササイズに親しんでもらう。参加者の目的や、経験、体力レベル等を考慮した運動プログラムを実感してもらい、さらにそれらのプログラムの組みたてかたを学ぶ。強化エクササイズとしてのコンディショニングやヨガ・ストレッチ等もとり入れてトータルな健康運動を体感して学ぶ。 この授業の担当者はエアロビック・ダンスエクササイズ指導の実務経験を有する。	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎
	健康運動実習Ⅱ	1	2	春		到達目標： 「水中環境における健康づくり」をテーマとし、自らが考え、行動できるレベルを到達目標とする。 授業概要： 水の特性を理解する。そして水の特性を利用して行う、水泳・水中運動の基本的な技法を習得する。水泳・水中運動が持つ、健康・体力づくりのための意義を学ぶ。運動強度の調節の方法を理解し、対象者に適した運動プログラムが構成でき、適切な指導が出来るように学習する。	○		○	○		○	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
健康スポーツ	健康運動現場実習	2	3	秋	○	到達目標： 習得してきた専門的能力を、実際の現場で生かせるために、専門職者としての実務能力や指導力を養成する。また、各自のそれまでの学習で、不足している内容を把握し、今後の指導力養成の糧とすることができる。 授業概要： 施設での実習に先立ち、学内に於いて、健康増進施設の概要や業務内容、対人関係での留意点などについて学習した後、施設で実習を行なう。	◎	△	◎	◎	○	○	○	◎
	運動療法	2	4	春	○	到達目標： 「運動療法の理論と実際」をテーマとする。運動療法の理論だけでなく、現場で役立つ実践方法の基礎を理解できる。 授業概要： 運動は体力の維持・向上だけでなく、生活習慣病の予防・改善にも効果的であることは周知の通りである。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって病状を悪化させてしまう。本講義では、生活習慣病と運動の関係について、疾患・疾病の関係特性について理解を深め、何をどの程度行うのが効果的であるのかを正しく理解し、対象者に適した運動プログラムの作成及び適切な指導が出来るよう学習する。	◎	○	○	○				○
	老年体力学	2	4	春		到達目標： 加齢に伴う心身の変化と身体活動は、密接に関連する。身体活動の低下は、日常生活の不具合を引き起こす。その予防・改善の為に高齢者の体力について理解することができる。 授業概要： 加齢にともなって、身体活動能力がいかに変化するかを示す。神経・筋系の機能、呼吸・循環機能及び運動能力の変化について理解し、体力的予備力やトレーナビリティを捉えて、高齢者に適した運動の実際をプログラム化しうよう学習する。	◎		○	○	◎	○		○
	健康心理学	2	2	春		到達目標： 『運動中の心理的効用』をテーマとし、心理的要因が運動のパフォーマンスに及ぼす影響など、スポーツの心理的テーマを広く系統的に取り上げ解説する。健康に影響を与える心理的な要因について理解し、心理面からの健康指導ができるようになる。また、健康づくりのための行動変容を促す指導ができるようになることを到達目標とする。 授業概要： 現代社会における精神保健に関わる問題を理解する。精神ストレスとそれに起因する健康問題及び、その解決方法を学ぶことができる。生活習慣病とそれに関わる心理的要因を理解するとともに、行動変容を含めた、健康心理学的知識を学習する。	◎	◎	◎	△	△	◎	○	○
	運動生理学演習Ⅰ	2	3	春		到達目標： 運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導にむけての基礎的能力を身につけることができる。 授業概要： 運動生理学演習室に設備されている実験機器をの操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。	◎	○	◎			◎		○
	運動生理学演習Ⅱ	2	3	春		到達目標： 運動生理学および身体運動学で身体構造、運動時の生体応答について学んだことを、実験実習形式で身をもって体験する。その結果、人間の生理的運動機能に対する理解を深め、教科書では学ぶことのできない体験的学習が可能となる。学生は将来の実践的運動指導等ができる能力を身につけることができる。 授業概要： 運動生理学演習室に設備されている実験機器をの操作を理解し、実際に自らの手によって実験を行う。その後、実験データの整理を行い、まとめてレポートを作成する。レポートには、実験の目的、方法、結果、考察。まとめの順で書くように指導する。その後、卒業研究にも結びつくように指導を行う。	◎	○	◎			◎		○
総合	◆ スポーツ社会学	2	1	春	○	到達目標： スポーツの社会学的理解をテーマに、学生が人間社会で生起する様々なスポーツ現象を社会学的視点から論理的に分析できる。 授業概要： 現代社会におけるスポーツの多面的な領域の主なものについて言及し、その実態と問題点及び将来展望について論じるとともに、これら多様に展開するスポーツを系統的に把握するための社会理論について社会学の領域から言及し、社会学的視点においてスポーツを本質的に理解するための知識と能力を養うことを目的とする。	◎	○	◎	○	◎	○	○	○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
総合	健康社会学	2	1	秋	○	到達目標： 健康の社会的意義を理解する。健康と社会の理想的なあり方について考える。社会と健康との関係性について理解することで、日常生活および将来にわたっての健康に対する考え方を学ぶことができる。 授業概要： 生活スタイルを含めた健康についての正しい知識、考え方について学ぶ。それらをふまえた上で、現代社会における健康や病気の社会的要因について把握する。特にみじかな健康問題に着眼点をおき講義を進めていく。また、健康に関わる制度政策についての認識も深める。	◎		◎			○		
	スポーツ哲学	2	1	春		到達目標： 体育・スポーツに関する概念や定義を把握し、自分自身の力で体育・スポーツの理想的なあり方を考えることができること。また、体育・スポーツについてのより良い指導を追求する意識を持つことができること。 授業概要： スポーツ哲学の様々な分野における知見を参照することで、スポーツ哲学専門領域の現状、課題および問題点を把握し、また、これらの内容についてディスカッションやレポートなどを実施することで、スポーツ哲学に固有の概念や研究方法に関する理解を深める。	◎	○	◎					
	スポーツ史	2	1	秋		到達目標： 「体育・スポーツの歴史を理解する」をテーマとして、様々な体育・スポーツ事象の歴史(成り立ち)について考える中で、体育・スポーツの現在と今後を考察する視点を身につける。具体的には、スポーツはどのように生まれたのか、並びにこれからどのような方向に向かうべきなのかについて、自分の中に妥当な「観」を形成することを到達目標とする。 授業概要： スポーツの象徴である「オリンピック」を取り上げ、古代から現代に至るまでどのような経過を辿ってきたのか、さらには近代に誕生した「近代スポーツ」の特徴について理解を深めるとともに、学校体育の歴史を振り返る中で、これからの体育やスポーツの進むべき方向性について、考察する。	◎	○	◎					
	スポーツ実習Ⅰ(体操)	1	1	春		到達目標： 『現代社会における生活環境の変化、特に運動不足の蔓延』をテーマとし、心身のストレスの増加、テクノロジーの発達などによって、人間の心身及び知的機能が阻害されている状況にあると言える。特に、運動能力やそれを支える感覚能力の衰退は著しいと思われ、このことは我々人間の生涯に亘る影響を及ぼすものである。つまり身体性の阻害が広がった現状と言えよう。基本的運動の習得をはじめとし、各種の体操を実践することによって、人間の持つ運動機能引いては運動感覚を取り戻し、健康維持増進、人間関係の構築、運動能力の向上などの基礎を築けるようになることを到達目標とする。 授業概要： 我が国においては1990年代以降、子供たちの基本的身体能力に対する危機感が急速に高まり、文部科学省も学習指導要領の基本要素の一つに「体ほぐしの運動」を設けて、基本的身体能力の育成に重点を置いている。近代以後、人間の基本運動の習得には体操が用いられてきた。その体操は、今日非常に多様化している。本実習では、これら多様な体操の実践方法と指導方法を学び、自己の目的に役立てることができるようになるとともに、他者へ提供する運動プログラムの内容として活用できるようにする。	◎		△			△		△
	スポーツ実習Ⅱ(器械運動)	1	1	秋		到達目標： 「器械運動を理解し、楽しく、安全に実施する」をテーマとし、器械運動の特徴でもある回転系、倒立系、跳躍系などの基本的な技を習得するとともに、器械運動の特性、危険性を理解し、安全かつ効率的な指導法を工夫しながら実践できることを到達目標とする。 授業概要： 反復練習をすることにより、基本的な技を滑らかに安全に実施できる技術を習得するとともに、自分の意志で自分の体をコントロールする身体支配能力や、バランス・身のこなしなどによる危険回避能力を高める。プリント資料や講義により器械運動の特性や危険性を理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫しながら指導能力を身につけるようにする。	◎		△	○		○	○	◎
	スポーツ実習Ⅲ(屋外球技)	1	1			到達目標:「ソフトボール」並びに「サッカー」の基本的な特性・規則を理解し、それぞれの競技に興味を持つことをテーマに、基本技能の習得や戦術理解、ゲームを通じて、基本的なトレーニング方法が実践できること、さらに将来、それぞれの競技の指導方法を身につける。 授業概要:ソフトボール並びにサッカーの基本的な技能などの学習を行う。基本技術を学んだ後、実際のゲームで用いられる戦術のうち、基本的なものを学習する。以上のような基礎的な事項を学習したのち、チームに分けてゲームを行い、ゲームを通して技能や戦術を活かす方法を考えていく。 本講義の中では、各自の能力を高めるだけでなく、それぞれ練習方法を考え、チームやグループで実践することを通じて、ソフトボールやサッカーを指導できる能力の向上も図る。 この科目は、中・高保健体育科教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。	◎	○	◎	◎		○	○	◎

授業科目◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
総合	スポーツ実習Ⅳ（陸上競技）	1	3	秋		到達目標： 体育教師の専門的力量育成を目標とし、陸上競技の指導に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された単元の目標や内容を理解するとともに実技能力と実技指導能力を身に着ける。 授業概要： 陸上競技種目のうち走る種目として100m走、100mハードル走、跳躍種目として走り幅跳び、走り高跳び、投擲種目として砲丸投げの5種目についてその実技能力を高めるとともに実技指導能力も習得する。	◎	○	◎	○		○	○	◎
	スポーツ実習Ⅴ（屋内球技）	1	3	秋		到達目標： 高等学校までに習得した内容を復習するとともに、屋内球技の中でも特にバレーボールやバスケットボールなどの専門的な技術や知識を身につけ、実践できるようになる。学生は選手としての知識や技能だけではなく、指導者として運動学的な知見を考慮した指導方法を考え、実践できるようになる。 授業概要： 安全に屋内球技を行うためのコート準備の方法及びルールの必要性をまず理解する。そして、基礎的な技術と指導方法を身につけたのち、より高度なチーム・プレイを学ぶ。選手としての目線からだけではなく、指導者としての指導方法についても実践から身につける。特に競技が苦手な対象者に対する指導方法について考案し、実践する。	◎	○		◎		○	◎	◎
	スポーツ実習Ⅵ（格技）	1	2	春		到達目標： 竹刀・木刀を用いての心身鍛錬を通じ、お互いの人格を尊重する。終始礼法を守り、基本動作を重視し、心技体を一体として修練する。指導者としての理論と実勢を修得する。 授業概要： 日本古来の尚武の精神に由来し、術から道に発展した伝統文化である剣道の特性を理解し、剣道が人格の完成を目的とした運動文化であることを理解すると共に、伝統的所作の理解から剣道のもつ特性、技術を授業時間ごとに系統的に展開する。対人競技としての特質を経験させる。なお、本実習は学校における剣道の指導及び地域における剣道の指導の実務経験者による実習である。	◎		○	△		○	○	◎
	スポーツ実習Ⅶ（ダンス）	1	2	秋		到達目標： 『身体を用いたノンバーバルな表現運動でありコミュニケーションでもある舞踊（ダンス）』をテーマとし、有史以来人類が育み伝承してきた身体運動文化で。体育領域においても、舞踊＝ダンスは主たる種目として位置づけられてきた。今日、人間の身体性に根ざした身体運動として、創造性の追及、自己の開示、表現、感性の涵養、他者との交流、リズム教育、自己の探求、健康づくり、等々様々な意味合い、需要、目的で、ダンスが行われている。特に、ダンスは現代社会において、次々と新たな様式・内容が生み出されている。これらの多様化してきたダンスを取り出して実技を学習し、基本運動を基にした動きの組み合わせを実施でき、さらに基本的なコレオグラフィーを創造できるようになることを到達目標とする。 授業概要： 基本運動を音楽のビート（拍）、フレーズ、曲調などに合わせて実施できるようになる。音楽に合わせた動きの組み合わせの遂行を学習し、そのうえで基本運動を用いて、一連の動作の組み合わせを創造する方法を学習する。その際、時間的要素と空間的要素を理解して、構成されたコレオグラフィーを発展させることを学習する。加えて、集団でのパフォーマンスの遂行を学習し、集団での演技の楽しさを体験する。これらを通して、表現運動としてのダンスの特性を学ぶ。さらに、現代的なダンスであるエアロビックやヒップホップについて、体験を積む。	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎
	運動学	2	2	秋		到達目標： 「運動分析から運動指導」と「基礎的技術のメカニズムの理解とその習得」をテーマとして、講義と演習を通じて、運動学（運動方法学）の基礎的知識の習得と自己の運動技能を向上させる方法を習得するとともに、それぞれの運動についての知識レベルを都道府県教員採用試験に出題される問題に対応できるレベルにすることを到達目標とする。 授業概要： 様々なスポーツ活動を構成する基本的身体運動の代表なものについて、その基本的動きのメカニズムを解説理解するとともに、主なスポーツの運動及び技術体系について整理し、運動及び技術の発生から多様化、高度化に至るまでの進化の過程について学ぶ。また、運動学の歴史的発展についても触れ、運動学の発展について学習する。	◎	○	◎			△		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
総合	運動方法学	2	1	春		到達目標： 『スポーツ指導者』をテーマとして、スポーツ全般を対象にして、その指導の方法論の原則について学習する。指導はあくまで指導の対象となる者、つまり選手や生徒が主体である。そして、指導は指導者とその指導対象者との関係性において、展開されるものである。そこには当然のこととして、指導対象者の基本的な条件、年齢、性別、目的、レベル等々が、存在する。また、環境との関係性も働きかけてくる。指導は生理学的原則などに立脚しつつ、教育学的及び心理学的理論、さらに今日では認知科学的及び脳科学的研究成果などを踏まえて行われる。学生はトップアスリート育成の方法論も講じながら、学校教育現場における体育授業での指導方法論、競技力向上を目的とした指導方法論、生涯スポーツ的な指導方法論などが理解できるようになることを到達目標と到達目標とする。 授業概要： 運動方法学は昨今コーチングとの関係性を強めている。これは偏に、指導対象者の主体性を重視し、その人の意思や志向性を指導の立脚点としようという試みである。各人の自己イメージや有能感を指導の中心的なテーマとして、指導者は対象者を見ることの大切さがそこにはある。これは学校教育における課題とも合致し、またトップアスリート育成での基本的な立場でもある。本講義では、こうした視点について、事例を多く示しながら理解していく。そのうえで、技能獲得の具体的な手立て、集団の形成と集団を生かした運動指導、などについて論じていく。	◎	◎	◎	△	△	◎	○	◎
	学校保健	2	3	秋		到達目標： 学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、児童・生徒教職員の健康管理のあり方等について説明できるようになる。 授業概要： 学校保健の領域・学校保健計画・保健組織活動について理解する。子どもの発育・発達及び健康課題とその対応について理解する。保健教育について理解する。	◎		△			△	△	
	衛生・公衆衛生	2	2	秋		到達目標： 公衆衛生活動の目的は、その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。 授業概要： 公衆衛生活動では、疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術があり、それらを学ぶ。この科目では、公衆衛生の総論的なもの、基礎的考え方を中心として専攻に関連の深い内容も加えて学習する。	◎		△			△	△	
	幼児体育	2	2	春		到達目標： 今日、幼少期においても運動不足、コミュニケーション不足が危惧されているため、『幼少期の運動活動』をテーマとし、スポーツの果たす役割が大きいことから政府はいろいろなスポーツ振興策を進めている。また、この時期は感覚器官及び脳神経系の発達が著しいため、生涯にわたる健康の獲得とスポーツ実践の基礎はこの時期の良い運動習慣により培われる。優れた運動感覚の習得は諸スポーツ活動にスムーズに入るための基礎であり、また、生涯を健康に生活していくための基礎でもある。しかし、幼少期の身体発達は骨格系・筋肉系・内臓系ともに未成熟であるため、この時期の運動感覚の習得は成人のトレーニングスタイルであってはならず、いかに遊びの中で、楽しく身につけるかが重要となる。本実習では幼少期において獲得されるべき基本的運動感覚についての基礎知識の習得と、それらを幼児および児童に楽しく実践させるための指導法について系統的に理解・実践できるようになることを到達目標とする。 授業概要： 幼少期の心身の発達及び運動発達について系統的に理解していく。「遊び」「幼少期の身体」「発育と発達」「感覚」「コミュニケーション」「スポーツ」等、専門用語の基本概念を理解したうえで、各発達段階における心身の機能の特徴を学習する。また、現在求められているコミュニケーション能力の獲得、対人関係の改善等の問題や体力・運動能力の低下の問題等幼少期の課題を理解し、支援するための運動のあり方を考えていく。これらの基礎理論の上にたって、実践的に運動を展開するための運動遊びやゲーム等の教材研究、指導方法を学ぶ。	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎
	解剖学	2	1	春		到達目標： 人体解剖学をより科学的に理解することをテーマとし人体を分子細胞のレベルから個体のレベルまで理解し、あわせて専門用語も身に付けることによって専門科目を容易に学ぶことできる。 人体の構造と機能を理解し、各専門科目を学ぶための基礎能力を身に付けることを目標とする。 授業概要： 人体は一個の受精卵から出発し、発生分化を経て複雑な構造体を形成している。解剖学はその人体の構造と各器官の形態及び機能を分子細胞のレベルから個体のレベルまで一体として理解し、合せて各専門科目を学ぶための基礎とする。	◎		○					○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
総合	生理学	2	1	秋		到達目標： 健康科学の根幹である生理学から人体の生きている仕組みを学ぶ。そして生体の在り方が多くのバランスの上に成り立つことを理解する。 授業概要： 生理学は身体各臓器の機能を知るとともに、身体全体としての統合的な調整と適応の機序を明らかにする学問である。各機能間の関連を考慮しながら、筋、循環、呼吸、消化、代謝、排泄、内分泌などの植物性機能の概要を講義する。また、健康科学や臨床医学とのかかわりを解説し、それらの基礎とすることを目指す。	◎		○					
	運動栄養学	2	2	春		到達目標： 栄養学の基礎として、各栄養成分の理解と、消化吸收のメカニズムについて理解し、実生活での食事と栄養の関係について配慮できるようになる。また運動のエネルギー供給について理解し、健康づくりやスポーツ活動における効果的な食事について配慮することができる。 授業概要： 基礎栄養学として、活動のエネルギーとなる栄養素と、体の恒常性を保つための栄養素について学び、日常の食事との関連について講義する。また、身体運動と栄養の関係について講義する。さらに、スポーツ活動や健康づくりに関連する、栄養素やビタミン、ミネラル、水分摂取などについて講義する。	◎		○			○		
	身体運動学	2	2	秋		到達目標： 身体運動を支える、体の機能を、生理学的、解剖学的を基本として学び、また、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来るようになる。 授業概要： 身体運動を支える、体の機能を、生理学的、解剖学的を基本として学ぶ。また、身体運動の成り立ちを物理学的解析法により理解し、運動の理論的実践指導が出来る。	◎	△	○			○		
	リハビリテーション医学	2	3	春		到達目標： 授業の到達目標及びテーマ:スポーツに関係する運動器疾患を中心として、リハビリテーション医学の対象となる疾患の理解をテーマとし、学生がそれらの病態とその治療、理学・作業療法の内容などの知識を身ににつけることができる。 授業概要： リハビリテーションの理念と社会的、地域的リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。平成12年度より始まった公的介護保険制度についても、社会的背景より講義を行う。リハビリテーションを単なる後療法と位置づけるのではなく、人間らしく生きるための技術、学問として考えていきたい。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性を強調したい。 ※実務経験のある教員による授業:この科目は、医師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。	◎	△	○					
	内科学一般	2	3	春		到達目標： 健康領域に従事する者として心得ておかねばならない医学一般並びに老人医療に関する知識を幅広く理解すること。ならびに他の医療従事者とも緊密にチームワークを作る為にも医学や看護などの基礎的知識を豊かにすること。学生はこれらのことを学び、理解することで、健康領域の現場に出た際に他の医療従事者と共通理解の上で円滑に業務を遂行することができる。 授業概要： 様々な疾患の概要、頻度、症候、病理生理、診断、治療と予後についての基礎的知識を把握する。また、疾患を十分理解するために、疾患の要因、特徴や症状についての理解を深める。生活習慣病に関しては、各疾患についての理解にとどまらず、運動療法、食事療法、薬物療法との関係についても理解を深める。	◎	○	○			○		
	東洋医学概論	2	1	秋		到達目標： 東洋医学の歴史は如何に誕生したのか、日本での変遷及び中国への影響、東洋医学の特徴、基本理念、古代哲学思想と医学との関連などを理解できるようになる。 授業概要： 東洋医学概論の講義では病気の予防および体質改善を目的とし、今後多分野の中で応用できる基礎理論の掌握を狙いとしている。生活の知恵から生まれた東洋医学の背景を検討し、さらにそれに伴って陰陽論の基本内容および東洋医学における陰陽論の応用、五行論の基本内容および東洋医学における五行論の応用、気血津液の分類と作用及び相互関係、臓腑学説の形成及び生理特徴、経絡の作用、循環及び連接の規則性、八綱弁証理論などを紹介する。	△		○		△	△		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
総合	経絡鍼灸学	2	2	春		到達目標： 東洋医学における重要な「経絡鍼灸学」をテーマとして、それについて福祉、健康とスポーツ領域で活用できるレベルを到達目標とする。 授業概要： 「経絡学説」は東洋医学における最も重要な生理学の一環であると同時に、臨床各科治療の基礎でもある。本講義ではまず経絡の起源に関わる背景を紹介し、その後「十二正経」を講義する。その中で主に経絡の循行部位、生理機能、病理特徴および分布特徴、関連部位及び代表経穴の取り方を中心として行われる。更に現代医学を併せてそれに関わっている筋肉、神経及び血管などを中心としている。「鍼灸学」について主に鍼の刺し方、灸療法のすえ方、適応症、注意事項及び鍼灸治療のメカニズム、また、中国の鍼灸状況を解説する。	△		○		△	△		
	東洋医学演習	2	2	秋		到達目標： 針灸、整体刺激による筋硬度への影響をテーマとする。学生はスポーツ選手に広く応用されている東洋医学的手法を習得することで、よくみかける肩こり、腰痛などへの影響を学ぶことのできる。 授業概要： 東洋医学演習の講義では、誰でもできる簡単な円皮鍼、艾灸、光灸、真空灸、整体といった東洋医学的手法を利用し、主に僧帽筋や腓腹筋の硬さを観察指標とし、スポーツ障害と筋の硬さとの関係を理解しその改善方法についての知識と理論について学習し、将来スポーツや福祉の分野において応用できるようにする。	△		○		△	△		
	発育発達	2	3	春		到達目標： 成人期以降の体の変化を総合的、臓器別に学び、老化のメカニズムを理解することによって、高齢者等の健康に配慮できるようになるとともに、安全で効果的な運動を指導することがができる。 授業概要： 人間の発育発達を生涯の加齢現象としてとらえ、成人期以降の力加齢と生体機能の関係を明らかにする。主に生理学、解剖学、心理学、老人病理学などの立場で講義し、The biology aging の意義について講義する。人間の一生において各機能形態的発達様式が違うことから、老化について考え、それぞれの時期に応じた適切な社会福祉とその対策について講義する。	◎		○			○		
	救急処置	2	3	春		到達目標： 「救急処置の基本と実際」、「スポーツ障害の現状と対策」をテーマとし、アスリートやスポーツ指導者として、学生がスポーツ障害の病態・診断・治療・障害予防について理解し、学んだ知識を実際のスポーツ現場での応急処置やスポーツ障害の予防に役立てることができる。 授業概要： スポーツの現場では、競技者としてのみならず、指導者として、突然の事故や内科的疾患に伴う緊急の事態に直面することがある。本講義ではこのような事態に備え、スポーツ中に起こりうる外傷・障害に関する医学的知識、とりわけ救急処置についての知識を資料を用いて解説し、グループディスカッションやディベート、救急処置の実技指導を通して実際の現場で自ら考え、対処できるようにする。	◎		○	△		○	△	
	運動生理学Ⅰ	2	2	春	○	到達目標： 動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学ぶことができる。 授業概要： ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。今日、運動不足による疾患が危惧されている。そこで呼吸・循環機能、脂質代謝と生活習慣病、またメタボリックシンドロームを説明し、予防、改善のための至適運動を提示する。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。	◎	△	○			○		
	運動生理学Ⅱ	2	2	秋		到達目標： 動物としてのヒトの根底には、常に身体運動が伴う。日々の在り方でそれは多様に変化し、各人を形成する。その可塑性を理解する。学生は、身体活動にともなう生体諸機能の適応やその機序に関する生理学を理解することにより、「運動」に関する考え方を学びことができる。 授業概要： ヒトの身体活動は人体の多様な機能を動員することで発現する。身体運動にともなう神経や筋の適応と機序について学ぶ。運動生理学の基礎的な知見について、テキストと実験データをもとに紹介する。	◎	△	○			○		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
	レクリエーション	2	2	春		到達目標： レクリエーション活動は、コミュニケーション能力を深める有効手段の一つである。今、多くの企業や職場でコミュニケーション能力のある人材が求められてる。また、レクリエーションの支援者として、家族の絆を深め、地域の絆を取り戻すきっかけづくりの提供、高齢者、障害者福祉施設、スポーツ・健康づくりに関する職場、地域社会、学校現場など即戦力となる人材を育成する。レクリエーションの授業を通して、楽しみながらコミュニケーション能力を向上させる。 授業概要： レクリエーションの楽しさ、仲間との交流の素晴らしさを体感し、ニュースポーツや最近話題の健康法「笑いヨガ(ラフターヨガ)」、そして、野外に出かけて自然との触れ合いなど、様々なレクリエーションの技法を体験的に修得する。	○		○	◎			△	◎
	アダプテッド・スポーツ	2	2	秋		到達目標： アダプテッド・スポーツの理論だけではなく、運動指導者としての実践方法の基礎を理解できる。 授業概要： アダプテッド・スポーツとは、1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツのことをいう。特に、障がいを持つ者の身体的・精神的障がいの種類や程度に合わせてルールや用具を適合させることによって、スポーツ活動を実施することができるようになる。しかしながら、間違った運動を行うと、かえって障がいを悪化させてしまう。本講義では、障がい者のスポーツ活動について、障がいの関係特性について理解を深めるとともに正しく理解し、対象者に適したスポーツ活動の理解及び適切な指導が出来るよう学習する。	○		△		△			△
教職関連科目	保健体育科教育法Ⅰ	2	2	春	○	到達目標： 体育教師の専門的力量育成を目標とし、保健体育科教育に関わる基礎的教育的事項について学習指導要領に示された教科の目標や内容を理解する。 授業概要： 保健体育科の目標および内容と各分野の目標と内容および指導計画の作成方法と内容の取り扱いについて理解するとともに、専門的教育知識を把握し、体育の授業の中で実践できるようにする。	◎	○	○	◎		○	△	△
	保健体育科教育法Ⅱ	2	2	秋	○	到達目標： 保健体育科において扱われる体育分野の内の4領域と保健分野について、それぞれの授業を行う際の重要ポイントを理解し、授業計画(指導案)を作成する。情報機器を使用したプレゼンテーションおよび模擬授業ができる。 授業概要： 体育分野の「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各領域と保健分野についてそれぞれの代表例の教材研究を行うとともに指導案作成、模擬授業を行う。模擬授業では教師の介入を逐次取り入れ、指導案と実際の指導との連携を理解し、授業づくりを行う。	◎	○	○	◎		○	△	△
	保健体育科教育法Ⅲ	2	3	春	○	到達目標： 模擬授業を通じて実技種目の実践指導方法を習得する。体育分野の4つの内容の実技について「できる」「わかる」「教えることができる」の能力をつける。 授業概要： 「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「球技」の各種目の指導方法を習得する。まず各種目について技ができる(示範)ようにスマートフォンなどで動画をその場で撮り、自己の動作を把握・改善する。技の運動構造を分析することから成功する「コツ」を理解し、その上で指導する際の留意点や効果的な指導法について学ぶ。	◎	○	○	◎		○	△	△
	保健体育科教育法Ⅳ	2	3	秋	○	到達目標： 体育教師の力量を高める。体育授業で求められる教師の力量が何であることを理解するとともに、指導案(細案)を作成し、模擬授業を行い、授業分析・評価することから教授力を高める。 授業概要： 教師行動と教授技術および授業分析・評価について理解する。模擬授業を行うとともにそれをVTRに記録し、次の授業において記録された模擬授業を分析・評価し、授業における教授能力を高める。	◎	○	○	◎		○	△	△

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
教職 関連 科目	教育原論	2	1	春		到達目標： 1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる 2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する 3. 近代公教育(学校)をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する 4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する 5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度(学校など)の役割について自身の意見を持つ 授業概要： 教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会(共同体)の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的(非組織的)な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。	◎		○	△				△	
	教職論	2	1	秋	○	到達目標： 教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。 授業概要： 教師、教職、人を教えるという行為など、教育という営みをめぐる哲学的、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。また、これからの学校においては、「チームとしての学校」の体制の中で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに、グループ討議等を通して、教員をめざすにあたり、自分には求められる資質・能力があるか、自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。	◎		○	○		△	○	△	
	教育行政学	2	3	秋		到達目標： 1. 教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する 2. 学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する 3. 学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する 4. 子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する 5. 現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する 6. 子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようにする 授業概要： 教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする(第1回)。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく(第2回～第7回)。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい(第8回～第14回)。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる(第15回)。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。	◎		○				△	△	△
	教育心理学	2	2	秋		到達目標： 1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける 授業概要： 教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。はじめに教育心理学の理論と方法を概観した後、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。続いて児童生徒の友人関係、心の問題を、学習活動や学校生活との関わりで解説する。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説する。	◎		△				△	△	

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
教職関連科目	特別支援教育	1	2	春		到達目標： 特別支援教育の理念とシステムを理解し、特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を知る。さらに特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒への適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につける。 授業概要： 特別支援教育では、特別支援学校や、保育園・幼稚園、小学校等において、様々な障害のある幼児・児童ひとりひとりのニーズに応じた適切な指導と支援が求められている。本科目では、特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の理解と指導内容・方法等の基本的事項について解説する。	◎	△				△	○	
	教育課程論	1	2	春	○	到達目標： 教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。 授業概要： 教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。	◎	△	○			△	△	
	道德教育の理論と方法	2	3	秋		【到達目標】 1)基礎的知識として、道德教育の歴史、発達理論、役割と意義を理解する。 2)道德の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。 3)作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4)道德科の評価について考え方を理解することができる。 ○授業では、各自のテーマを決め、パワーポイント資料を作成して発表、グループワーク、模擬授業等に取り組む			◎	○		△	△	○
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	春		【到達目標】 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、特徴などについて理解する。 2. 特別活動の内容を理解し、年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。 ○授業では、グループワークを取入れたたり、単元のテーマを決め、単元計画、学習指導案を作成したりする。			○	△		◎	△	○
	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2	3			【到達目標】1 情報通信技術を効果的に活用した基礎的な指導法を身に付けている。2 児童生徒が情報通信機器を活用する上で、基本的な操作の指導を身に付けている。3 個別な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 4 特別な支援を必要とする児童生徒への情報通信技術の必要性和留意点を理解している。 5 校務システムの活用例や情報セキュリティの重要性について理解している。○授業では情報通信技術を活用した指導法を実践的に学修する。		◎		○		△	△	○
	生徒・進路指導論	2	3	秋	○	到達目標： 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2 すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5 すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。 授業概要： 生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。			△	◎		○	△	○

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
教職関連科目	教育相談の基礎	2	1	秋		到達目標： 「教育相談の基礎」では、学校での教育相談の理論と方法をテーマとする。 この授業の到達目標は次の通りである。 (1)教育相談の意義や、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論を理解する (2)不適応や問題行動、発達障害の特徴とそれらへの対応方法の基礎について理解する (3)チーム学校としての組織的な取組や専門機関等との連携について理解する 授業概要： 学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。	◎		○	○				△	
	教育実習指導	1	3	秋	○	到達目標： 「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。 授業概要： 次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の教員や教育委員会などの現場の先生方の講義を中心に進める。また、受講者は全員、正規の授業時間外に、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。	◎	◎	◎	◎		◎	◎	○	
	教育実習	4	4	春	○	到達目標： 教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。 授業概要： 教育実習は、教員免許取得のための必修科目であり、中学校、または高等学校での実習を通して、大学で学んできた知識や技術を現場における実際の教育活動と結びつけるためのものである。そのために、3週間にわたる実数期間中に、授業実習のみならず、学校はどんな活動をするところか、教師はどんな仕事をしているのか、生徒の実態はどうか、授業はどのように行われているのかなどについて、観察したり、参加したりしなくてはならない。実習期間は実習校によって違いがあるが、基本的には6月を中心とした3週間である。学校での実習終了後、大学で事後指導としての授業もある。	◎	◎	◎	◎		◎	◎	○	
	教職実践演習(中・高)	2	4	秋	○	到達目標： 教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。 授業概要： 学校や教育委員会の先生方の協力のもと、講義、討議、ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 2. クラス運営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、力量向上のための取り組みを検討する。	◎	○	◎	◎		◎	○	○	
	介護等体験の研究	1	2	秋		到達目標： 介護等体験の意義・目的の理解がテーマであり、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることが到達目標である。 授業概要： 次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。様々な特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。	◎							△	
演習・卒業論文	◆ 基礎演習Ⅰ	2	1	春	○	到達目標： 大学生生活の導入部分として、学習の動機づけを行うとともに、学習の方法を身につける。図書館での資料の探し方、文献検索の仕方、レジュメ(報告用資料)の書き方、報告の仕方、レポートの書き方などを学ぶことができる。2年次から始まる「演習」のための準備科目でもある。 授業概要： 「話す」「読む」「書く」「聴く」等コミュニケーションスキルの習得を徹底し、大人としての最低限の表現能力を身につけることをよう実践する。	◎	○	◎	◎	○	○			◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
演習・卒業論文	◆ 基礎演習Ⅱ	2	1	秋	○	到達目標： 春期学習した「コミュニケーションスキル」をベースに「プレゼンテーションスキルの向上」をテーマに、プレゼンテーション能力を身につけることができる。2年次から始まる「演習」のための準備科目でもある。 授業概要： プレゼンテーションの目的・方法を理解し、各自でテーマを設定し、テーマにそったプレゼンテーションを行なう。また、発表者のプレゼンテーションに対して、ディスカッションを行なう。	◎	○	◎	◎	○	○		◎
	◆ 演習Ⅰ	2	2	春	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース：「スポーツマネジメント」について組織論・経営論・制度論などの基礎的な知識を身に付けている。また、「コーチング」の基本的な理念や手法に関する知識を身に付けている。それらを活用して論理的に物事を考える力を身につけることができる。 健康スポーツコース： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。論理的に物事を考える力を身につけることができる。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース： 健康スポーツコース： 「健康とスポーツ」に関する資料を読み、自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。	◎	○	◎	○	○	○		◎
	◆ 演習Ⅱ	2	2	秋	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース：春学期に身に付けた「スポーツマネジメント」や「コーチング」の基本的な理念・知識などを深めることができる。それらを活用して多様な観点からスポーツマネジメント及びコーチングについて自分の意見を論理的に述べるができる。 健康スポーツコース： 「健康」について運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識および、「健康」についての考え方を深める。健康について様々な視点から考えることができる。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース： 健康スポーツコース： 演習Ⅰで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめることが必要である。	◎	○	◎	○	○	○	○	◎
	◆ 演習Ⅲ	2	3	春	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース 各ゼミのテーマ別にマネジメント、コーチングの観点からスポーツの支援・振興についての基礎的な理念・知識を身に付けることができる。身に付けた知識を活用して、スポーツの支援の在り方について意見を述べるができる。 健康スポーツコース 各ゼミのテーマ別に運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識や考え方を深める。学生は論理的に物事を考える力を身につけることができる。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース 健康スポーツコース 各ゼミのテーマ別に関係する資料を読み、自分が疑問に感じること、興味があることについて考え、その中から各自がテーマを選択する。関連資料を収集し、その成果をまとめる。	◎	○	◎	○	○	○	○	◎
	◆ 演習Ⅳ	2	3	秋	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース 各ゼミのテーマ別にスポーツの支援・振興についての基礎的な理念・知識を用いて、スポーツの支援の現状を分析することができる。各自の興味関心と社会的ニーズをもとに主体的に研究テーマを設定できる。 健康スポーツコース 各ゼミのテーマ別に運動・栄養・休養などの観点から、基礎的な知識や考え方を深める。学生はテーマに関して様々な視点から考える能力を身につけることができる。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース 健康スポーツコース 演習Ⅲで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し、全員で討論する。三年生の演習に結びつくように内容にまとめることが必要である。	◎	○	◎	○	○	○	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	テーマと到達目標	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
演習・卒業論文	◆ 演習Ⅴ	2	4	春	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース 演習Ⅲ・Ⅳで決定したテーマに関する基礎的な概念等を批判的に考察することが出来る。調査手法を理解し、選択した上で、適切な調査計画の作成を行うことができる。 健康スポーツコース 演習Ⅲ・Ⅳで決定したテーマに関する実験や調査を通してそれらの相互関係を理解することができる。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース 健康スポーツコース 演習Ⅲ・Ⅳで決定したテーマが、自らの健康と体力を維持し、生活の質を向上させるためになすべきことを、具体的な実験あるいは実践を通して検証していく。自らが疑問に感じる事、興味があることについて考え、自分自身に問題提議する。その中から各自が設定したテーマに関する関連資料を収集し、その成果をまとめて発表し討論する。	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎
	◆ 演習Ⅵ	2	4	秋	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース 演習Ⅴで設定した調査計画を適切に実施し、その結果を整理し分析することが出来る。各自のテーマの成果をまとめて、他者に伝え、議論することが出来る。 健康スポーツコース 演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴで決定した各自のテーマをさらに深めていく。各自のテーマの成果をまとめて、発表し討論する。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース 健康スポーツコース 演習Ⅴを発展させ、具体的な実験あるいは実践を通して検証していく。検証すべき課題を設定し、実験あるいはフィールド調査等の手法を用いて研究を進めていく。基本的技術として、実験機器の操作法や実験手法やパソコンによるデータ集計、作図方法、プレゼンテーション技術などを学ぶ。十分な理解を得るために、授業時間以外にも実験ならびにデータ整理等の指導を行う予定である。	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎
	◆ 卒業論文	4	4	通年	○	到達目標： スポーツマネジメント・コーチコース 『スポーツマネジメント及びコーチングに関連した分野の研究』をテーマとし各自が選択したテーマについて、科学的な手順に則って論文を作成する。学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。 健康スポーツコース 『健康や・運動・スポーツなどに関連した分野の研究』をテーマとし、自分が選択したテーマについて、科学的な手順にのっとり、論文を作成する。学生はこの過程を通じて、論理的な考え方や、考察の仕方、実務能力などを学び、社会に出てからの諸々の業務に対応できるようになることを到達目標とする。 授業概要： スポーツマネジメント・コーチコース 健康スポーツコース 各自の研究テーマを、先行研究の抄読を基に選択する。そして、論文作成のために適する研究方法の選択を行う。仮説を構築し、また問題の所在を明らかにして、データの収集や文献の収集を行う。データの基づく研究では、標本の抽出に留意し、文献資料に基づく研究では、論理性を重視した、論文の作成を行う。	◎	◎	◎	○	○	○	◎	◎